

研究発表会開催通知

(昭和 61 年 5 月 15 日～6 月 30 日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
マルチメディア通信と分散処理	5 月 15 日 (木)	13 : 00～17 : 15	阪 大	前号参照
データベース・システム	5 月 19 日 (月)	10 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
設 計 自 動 化	5 月 20 日 (火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
情 報 シ ス テ ム	5 月 20 日 (火)	13 : 30～17 : 00	慶 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	5 月 22 日 (木)	13 : 00～17 : 30	名 大	同 上
自 然 言 語 処 理	5 月 23 日 (金)	13 : 00～16 : 20	N T T	同 上
プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語	5 月 23 日 (金)	10 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	5 月 28 日 (水)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
オペレーティング・システム	6 月 6 日 (金)	9 : 30～17 : 00	同 上	下記参照
記 号 処 理	6 月 20 日 (金)	10 : 00～17 : 00	東 北 大	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	6 月 25 日 (水)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
マイクロナンピュータ	6 月 27 日 (金)	未 定	同 上	次号参照

◆ 第 31 回 オペレーティング・システム研究会

(発表件数：6 件)

(主査：亀田壽夫，幹事：紀 一誠，野口健一郎)

日 時 昭和 61 年 6 月 6 日 (金) 午前 9 時半～午後 5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷－東京タワー線東京タワー，渋谷－東京駅八重洲線虎ノ門下車，Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 特集：オペレーティング・システム (OS) 及び関連分野での標準化動向

OS 及び OS 関連の標準化動向をサーベイし，今後の OS へのインパクトについて評価する。

(1) 情報技術の標準化とオペレーティング・システムインタフェース

高橋 茂 (東京工科大)

〔概要〕 情報技術標準化の一連の動向のなかで，オペレーティング・システムインタフェース標準化のニーズが浮かび上ってきた状況について述べる。

(2) OS インタフェースの標準化動向

松田晃一 (NTT 通研)

〔概要〕 OS インタフェース標準化に関する国内外での動きについて，MOSI，UNIX，CAIS，TRON 等を取り上げ，簡単なサーベイを試みる。

(3) OSI 標準化動向と OS との関連：OSI 管理

小林偉昭 (日立)

〔概要〕 OSI の障害，会計，性能管理等の概要及び分散化するシステムの統一的

管理実現のための OS への要望について述べる.

(4) OSI 標準化動向と OS との関連: OSI アプリケーション

栗山幸造 (日電)

〔概要〕 FTAM, JTM, MHS 等の OSI アプリケーションの標準化動向を紹介し, それらが OS に与えるインパクトに関して考察する.

(5) データ・ディクショナリ/リモートデータベースアクセス標準化動向と OS との関連

溝口徹夫 (三菱電機)

〔概要〕 データベース関係の標準化はデータベース言語のほかに, データ辞書とリモートデータベースアクセスが課題となっている. 始まったばかりのこの二つの標準化活動の現状を紹介する.

(6) プログラミング言語標準化動向と OS との関連 斎藤信男 (慶大・工)

〔概要〕 プログラミング言語と OS のインタフェースとは密接な関連を持つ. これについて Ada, C, Modula-2 を例としながら動向を概括する.

◆ 第 39 回 記号処理研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 和田英一, 幹事: 井田昌之, 小川貴英, 元吉文男)

日 時 昭和 61 年 6 月 20 日 (金) 午前 10 時~午後 5 時

会 場 東北大学工学部 電気情報系棟 311 号会議室

(仙台市荒巻字青葉, 国鉄: 仙台駅下車, 市営バス (日立ファミリーセンタ前): 43, 44, 45 番乗り場 (七十七銀行本店前) 工学部経由宮城教育大行で工学部前下車, 約 15 分. Tel. 0222 (22) 1800 内線 4270)

議 題 (1) Automatic Elimination of Backtracking in Programming Systems with Backtracking

T. Ito, T. Matsuyama, K. Yamazaki (Dept. of Information Engineering, Tohoku Univ.)

〔概要〕 An idea of eliminating redundant backtracking by using various “features” extracted from input data and programs is proposed and a Prolog interpreter with this ability is developed to verify its effectiveness.

(2) Prolog プログラムの並列実行モデル

田沼 均, 富樫 敦, 野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕 Prolog プログラムに内在する AND-OR 並列性を実現する. 並列実行モデルとそのシミュレーション結果について報告する.

(3) 複数のアーキテクチャをターゲットにした高速 Prolog コンパイラ

浅川康夫 (日本 IBM)

〔概要〕 IBM S/370 および RT PC をターゲットとした Prolog コンパイラを試作した. その実現方法と評価について報告する.

(4) Lisp の並列実行一処理系の設計・試作

今 昭, 松山隆司, 伊藤貴康 (東北大・工)

〔概要〕 マルチマイクロプロセッサ上で S 式を並列評価する Lisp システムを設計・試作しその評価を行った.

(5) MS-DOS 上のコンパイラベースの Lisp 処理系の開発と REDUCE 3.2 の移植

山本 強, 青木由直 (北大・工)

〔概要〕 8086 をターゲットとしたアプリケーション指向の Lisp 処理系の開発と REDUCE 3.2 版の移植について報告する。

(6) LISP システムの開発と CAI への応用 最首和雄 (山形大・工)

〔概要〕 MC 68000 をホストとする Lisp インタプリタとその上の数式照合用プログラムを開発し、数式照合を行う CAI プログラムを作った。

(7) TAO/ELIS 上での COMMON LISP の実現

竹内郁雄, 山田康宏 (NTT 通研)

〔概要〕 TAO/ELIS 上に Common Lisp のフルセットを重視した. インビジュアル・ポインタの活用により, インタプリタでも速い処理系となった。

(8) TAO/ELIS 上での C プログラム環境

梅村恭司 (NTT 通研), 今 昭 (東北大・工)

〔概要〕 C プログラムを TAO に翻訳して実行するシステムを試作した. コンパイル型の言語をインタラクティブな言語に翻訳することにより, 開発速度が向上することを説明する。

◆ 第 48 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 花田収悦, 幹事: 落水浩一郎, 紫合 治, 春原 猛)

日時 昭和 61 年 6 月 25 日 (水) 午後 1 時半～5 時

会場 機械振興会館 6 階 67 号室 (所在地は前記参照)

議題 (1) OS/omicon 用言語 C コンパイラ cat の開発—VAX/UNIX クロスシステムからの移行—

屋代 寛, 森 佑志, 並木美太郎, 中川正樹, 高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 VAX/UNIX を開発環境として MC 68000 用 C コンパイラ cat を開発した過程を報告する。

(2) 言語 C コンパイラ cat の方式設計と最適化処理

並木美太郎, 施 清 池, 森 佑志, 中川正樹, 高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 保守性の向上, 最適化の強化, 文書化ツールへの応用を目的とした, CAT の第 2 版の方式設計と実現について。

(3) 開発環境特性の統計分析を用いたエラー予測モデルの評価

高橋宗雄, 釜 范 祐 治 (NTT 通研)

〔概要〕 開発環境特性 (設計仕様の変更度等) の統計分析を用いたエラー予測モデルの評価結果と予測精度の向上法。

(4) 業務処理システムの進化とデータモデル

坂内広蔵 (電力中研)

〔概要〕 企業の業務処理システムの進化過程の分析に基づき, システムの進化に対応できるデータモデルの考え方を示す。

◇ データベース・システム研究会

第 56 回 研究会を下記の日程で開催を予定しております。発表希望の方は 7 月 31 日までに事務局研究会係まで送付 (タイトル・50 字以内の概要) 願います。

日時 昭和 61 年 11 月 17 日 (月) 10:00～

会場 筑波大 大学会館 特別会議室

テーマ 情報資源管理

◇ 情報学基礎研究会

第 1 回 研究会を 7 月 24 日 (木), 第 2 回 研究会を 9 月 26 日 (金) に機械振興会館で開催いたします。3 月号本欄で第 1 回を 6 月 2 日 (月) の予定と記載しましたが, 上記のように訂正いたします。奮ってご発表, ご参加ください。

昭和 61 年度第 27 回 通常総会の開催について

昭和 61 年度通常総会を下記によって開催いたします。総会の案内状は、正会員各位に別途郵送いたしましたので、ぜひご出席ください。なお、ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

日 時 昭和 61 年 5 月 20 日(火) 15:30~17:00

会 場 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

- 総会次第
1. 会長のあいさつ
 2. 昭和 60 年度事業報告および決算報告
 3. 昭和 61 年度事業計画および予算審議
 4. 昭和 60 年度功績賞の表彰
 5. 昭和 60 年度論文賞の表彰
 6. 名誉会員の推挙
 7. 新役員の選定
 8. その他

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ(無料)を行ないます。(会場 6 階 66 号室)
会員が一堂に会し、直接にお話しできる得難い機会ですので、皆様のご出席をお待ちいたしております。

「グラフィクスと CAD」シンポジウム論文募集

標記シンポジウムが論文を募集中です。奮ってご応募ください。なお、詳細については前号本欄を参照ください。

日 時 昭和 61 年 11 月 18 日(火), 19 日(水) 9:00~17:00

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

スケジュール

論文(ビデオ内容)概要締切

8 月 1 日(金)

採択論文(ビデオ)決定、通知

8 月下旬

本論文(ビデオ説明)

10 月 15 日(水)

第 31 回 全国大会学術奨励賞の表彰

第 31 回全国大会学術奨励賞は、去る 3 月 11 日～13 日に学習院大学で開催された第 32 回全国大会の席上、会長から下記 11 君に授与されました。

本賞は昨年 9 月の第 31 回全国大会（於東京電機大学）の発表論文を対象に、学術奨励賞委員会（委員長 松尾副会長）において表彰規程にもとづき、総発表件数 868 件中推薦のあった 48 名の候補者の中から 17 名を選び、さらに慎重審議の結果、11 名が受賞候補者として推薦され、第 295 回理事会（昭和 61 年 1 月）の承認をえて決定されたものです。

関係データベース演算パイプライン処理におけるバッファ管理法 (1B-1)

清木 康君（正会員）

昭和 31 年生。昭和 53 年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。昭和 58 年慶応義塾大学大学院博士課程修了。工学博士。同年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所入所。昭和 59 年より筑波大学電子・情報工学系に勤務。現在同学系講師。データベースシステム、並列処理アーキテクチャの研究に従事。電子通信学会、ACM 各会員。

データベースマシン GRACE のプロトタイプシステム (1B-6)

伏見 信也君（正会員）

昭和 34 年生。昭和 56 年東京大学理学部情報科学科卒業。昭和 58 年同学大学院情報工学専門課程修士課程修了。現在、同大学院博士課程在学中。データベースマシン、データベース管理システム、並列計算機の研究に従事。電子通信学会、日本ソフトウェア科学会各会員。

高性能 Prolog マシン (CHI) のマシン・デバッグ支援環境 (3C-7)

幅田 伸一君（正会員）

昭和 32 年生。昭和 55 年北海道大学工学部電気工学科卒業。昭和 57 年同大学院情報工学科修士課程修了。同年日本電気(株)入社。同社 C & C システム研究所に所属し、現在に至る。コンピュータアーキテクチャの研究に従事。

オブジェクト指向言語 VEGA によるマイクロプログラム開発支援システムⅡ—— シミュレータのビジュアルインタフェース—— (4D-4)

杉本 明君（正会員）

昭和 28 年生。昭和 52 年京都大学理学部卒業。昭和 54 年京都大学大学院工学研究科修士課程数理工学専攻修了。同年三菱電機(株)入社。同社中央研究所システム研究部に勤務。現在に至る。設計支援環境に関する研究に従事。電子通信学会、ACM 各会員。

機能ディスクシステム (5D-8)

喜連川 優君（正会員）

昭和 30 年生。昭和 53 年東京大学工学部電子工学科卒業。昭和 58 年同学大学院情報工学専門課程博士課程修了。工学博士。同年同学生産技術研究所講師。現在、同助教授。機能エレクトロニクス研究センターに所属し、並列計算機アーキテクチャ、第 5 世代コンピュータ、データベースシステム、画像処理システムに関する研究に従事。電子通信学会、電気学会、IEEE 各会員。

科学技術計算用データ駆動計算機 SIGMA-1 のメンテナンス・アーキテクチャ (6D-3)

平木 敬君 (正会員)

昭和 26 年生。昭和 51 年東京大学理学部物理学科卒業。昭和 57 年東京大学理学系大学院物理学課程修了。同年電子技術総合研究所に入所。現在に至る。記号処理計算機アーキテクチャ、並列処理アーキテクチャ、データフローアーキテクチャの研究に従事。

統合プログラミング環境 ORAGA (I) 並列オブジェクト指向言語 Dinner Bell (1E-6)

神田 陽治君 (正会員)

昭和 34 年生。昭和 56 年東京大学理学部情報科学科卒業。昭和 58 年同大学院工学系研究科情報工学専門課程修士課程修了。現在、同大学院博士課程在学中 (昭和 61 年 3 月現在)。創造活動を支援できる総合プログラミング環境の実現を目標に、ヴィジョン作りから始め、現在具体化に努力中。創造性工学や哲学にも興味を持つ。電子通信学会、日本ソフトウェア科学会各会員。

マニュアルの“使いやすさ”の定量的評価 (6E-8)

牛尾 泰典君 (正会員)

昭和 34 年生。昭和 58 年静岡大学工学部情報工学科卒業。同年富士通(株)入社。同社ソフトウェア事業部検査部に所属し、大型汎用システムにおけるエンドユーザ向け製品 (特に、TSS 関連製品) の製品検査に従事。現在に至る。

ロボット用マルチメディアディスプレイ——モデリング機能——(3K-8)

松井 俊浩君 (正会員)

昭和 31 年生。昭和 55 年東京大学工学部計数工学科卒業。昭和 57 年同大学院情報工学修士課程修了。現在、電子技術総合研究所に所属し、対象指向型記述に基づくソリッドモデラやロボット用グラフィックスシステムの研究に従事。2 次元、3 次元的な映像情報と、その 1 次元 (言語的) 表現との接点に興味を持つ。日本ロボット学会、ACM 各会員。

ルールの変換による類推 (7M-8)

原口 誠君 (正会員)

昭和 29 年生。昭和 51 年九州大学理学部数学科卒業。昭和 53 年同大学院理学研究科数学専攻修士課程修了。昭和 54 年鹿児島大学理学部数学教室助手。昭和 56 年九州大学理学部附属基礎情報学研究施設助手。昭和 59 年理学博士。現在に至る。オートマトン理論、帰納推論、不完全データベース、類推の定式化、推論システムなどの研究に従事。日本数学会、LA 各会員、ICQT 人工知能基礎 WG 委員。

3 次元形状モデルの解析に基づく戦略駆動型物体認識 (4N-4)

久野 義徳君 (正会員)

昭和 29 年生。昭和 52 年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和 57 年同大学院工学系研究科電子工学専門課程修了。工学博士。同年(株)東芝入社。同社総合研究所情報システム研究所に勤務。現在に至る。コンピュータビジョン、特にロボット用の視覚の研究に従事。電子通信学会、日本 ME 学会、IEEE 各会員。

プログラミング・シンポジウムについて

第 28 回 プログラミング・シンポジウム開催（予告）

- 日 時** 1987 年 1 月 7 日(水)～9 日(金)
場 所 箱根ホテル小涌園（予定）
問合せ先 情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03(431)2808
発表申込 9 月 15 日までに、氏名、所属、連絡先、発表の題と要旨を A 4 判用紙 1～2 枚に書いて事務局宛お送り下さい。
参加申込 10 月号に参加申込書を、また、11 月号にプログラムをみどりのページで案内予定
注 意 (1) 学術論文発表の場というより、多方面の人々の共通の討論の場であり、意見の交換の場であると考えています。
(2) 情報処理の健全な発展のために、多数の方々が参加され、特に利用者の立場から発言されることを期待します。
(3) 未完成であっても将来に影響を与えるような話題を歓迎します。
(4) 夜にポスタセッションおよびマイコンデモ用などの場所を用意する予定です。

夏のシンポジウム「ヒューマン・フレンドリなシステム」開催

- 日 時** 昭和 61 年 7 月 21 日(月)～7 月 23 日(水)（2 泊 3 日）
場 所 静雲荘（文部省共済組合宿泊所、神奈川県箱根）
参 加 費 25,000 円
定 員 50 名
参加申込締切 5 月 31 日（詳細は前号本欄参照）

第 19 回 情報科学若手の会シンポジウム開催（予告）

- 日 時** 1986 年 8 月 5 日(火)～7 日(木)
場 所 工業技術院 研究協力センター
定 員 35 名（先着順）
参加資格 情報科学およびその関連分野で、研究・実務に従事している若手研究者・技術者。
参 加 費 5,000 円（食費別、遠距離からの参加者には、交通費の一部補助を予定）。
参加申込 A 4 判の用紙に氏名、所属、学年、連絡先、電話番号、および発表内容の要旨を記入して送付のこと。
申込締切 1986 年 6 月 30 日（人数確認のためなるべく早く申込みをしてください）。

申込・問合せ先 〒305 茨城県新治郡桜村天王台 筑波大学 電子・情報工学系
益田研究室 若手の会事務局（幹事代表 高野）Tel. 0298(53)5163

●参加を内諾された先生方は以下のとおりです。

米田 信夫（東 大）

土居 範久（慶大）

木村 泉（東工大）

竹内 郁雄（NTT 基礎研）

（順不同，敬称略）

第2回 山内賞の授賞決定

山内記念会理事会（会長 森口 繁一）において，プログラミング・シンポジウム（PS）発表論文の中から，次のとおり山内賞を決定しました（詳細は本号555ページをご参照ください）。

山内業績賞（第2，3，4回 PS）

算術の問題を解くプログラム

清水辰次郎

山内業績賞（第4回 PS）

常微分方程式の数値解法に関する三つの着想

森口 繁一

山内奨励賞（創意の部）（第27回 PS）

ドキュメンテーションエンジニアリングによるマニュアル作成

根岸 寛明・吉田 哲三

山内奨励賞（表現の部）（第27回 PS）

多層テキスト構造を持つ日本語エディタ

角田 博保

学会誌送本先の住所等の変更届について（お願い）

年度の終りから始めにかけては異動期で，会員の住所や所属の変更が殺到いたします。これまで任意の書式でご連絡いただきましたが，EDP 化した事務処理の誤りを防ぎ，能率化するため，前号末尾に「変更連絡届」用紙を添付いたしました。今後異動連絡の際にご利用くださるようお願いいたします。

「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集

今日、情報システムは急速に社会に普及・浸透し、それと共に利用者を指向したシステムの実現が重要な課題となっている。この課題に取り組むに当たっては、情報システムをさまざまな組織体での日常業務処理、意志決定あるいは情報サービスのための、ハードウェア・ソフトウェアとその運用機構としてとらえ、技術的な方法論はもとより、システムによる情報の生産・流通・利用過程、それにかかわる組織・人間の問題など、幅広い視点からシステムの設計と構築を論ずる必要がある。

以上の観点から、本シンポジウムでは、この問題に関心を持つ各分野の研究者、開発者、利用者、運用者が一堂に会し、広い立場から共通する問題点の討論を行ないたい。

日 時 昭和 61 年 12 月 5 日(金)～6 日(土)

場 所 図書館情報大学 (5 日宿泊は、筑波研修センター (予定))

トピックス

- システムの事例と適用分野
- システム設計手法、システム開発のすすめ方、システムのモデル化
- 利用者・運用者から見たニーズ・期待と評価、利用方法、運用管理
- 各種ツール (OA 機器、ソフトウェアパッケージ、各種端末、パソコン通信など) の利用
- 開発者・利用者・運用者それぞれの役割とコミュニケーション、教育、システム構築への影響
- 技術動向・社会情勢からのインパクトと課題、将来展望、関連する科学・芸術・思想

実施方法

- (1) 発表論文については公募及び情報システム研究会連絡委員による推薦とする。
- (2) 完成された研究論文のみでなく、経験事例、問題提起、アイデアの提案など色々な性格の論文の応募を歓迎する。
- (3) 応募される場合は、アブストラクト (A4 判用紙 1 枚) を 7 月 8 日(火)までに提出すること。
- (4) 採否の決定は 8 月 11 日(月)までに連絡する。
- (5) 本論文は原則として和文 (研究会原稿用紙 10 枚以内) とし、10 月 31 日(金)までに提出すること。

採択論文については論文集に収録する。

申 込 先 (社)情報処理学会「利用者指向の情報システム」シンポジウム係

Tel. 03 (431) 2808

なお本シンポジウムに関するお問合せは下記までお願いします。

情報システム研究会

主査 浦 昭二	慶応義塾大学 理工学部管理工学科	Tel. 044 (63) 1141
幹事 山本毅雄	図書館情報大学	Tel. 0298(52) 0511
橋本茂司	(株)東レシステムセンター 企画部	Tel. 03 (245) 5002
松谷泰行	日鐵コンピュータシステム(株) 技術部	Tle. 03 (241) 6491

支 部 だ よ り

情報処理学会東北支部大会講演募集

——昭和 61 年度電気関係学会東北支部連合大会——

- 期 日** 昭和 61 年 8 月 28 日(木), 29 日(金)
28 日(木)一般講演, 技術報告 午後・特別講演 29 日(金)一般講演, 技術報告
28, 29 日の両日, 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器, 情報関連機器
ほか)
- 会 場** 岩手大学工学部(盛岡市上田 4-3-5)
- 申込方法** 「講演申込書」は申出により「原稿用紙 1,600 字」「原稿の書き方」と共に渡す。
郵送希望の場合は 1 部 170 円(2 部以上の場合は 1 部増すごとに 70 円増)の郵
送料を添えること。講演申込金 3,000 円(論文集代・別刷 50 部代を含む)。
- 申込・原稿締切日** 7 月 4 日(金)必着厳守(申込書と原稿を同時締切とする)。
- 論 文 集** 論文集は大会当日受付にて配布する。(1 部 2,500 円, 郵送料 500 円)
- 申込・問合せ** 東北大学工学部電気情報系学科内 庄司 Tel. 0222(22)1800(内 4312)
- 懇 親 会** 8 月 28 日(木)18:00~ 場所 岩手第 1 ホテル 会費 3,000 円

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

Computer Graphics Tokyo '86

昭和 61 年 4 月 22 日(火)~25 日(金) ホテルパシフィックほか
セミナ「人工知能と FA」

昭和 61 年 9 月 24 日(水)~25 日(木) 光陽社ビル 2 階講堂

第 7 回 数理計画シンポジウム

昭和 61 年 11 月 6 日(木)~7 日(金) 名古屋国際センター

NICOGRAPH '86

昭和 61 年 11 月 11 日(火)~14 日(金) サンシャインシティプリンスホテルほか
国際ファジィ・システム学会第 2 回 会議

1987 年 7 月 20 日(月)~25 日(土) 上智大学(予定)

*詳細は本号会議案内欄参照

第17回画像工学コンファレンス論文募集

画像工学コンファレンスは1970年の発足以来、関連学会・研究会の共通の研究発表、討論の場として、日本の画像関係の研究開発の発展に大いに寄与して参りました。本年も新たな発展を期し、第17回画像工学コンファレンスを開催することに致しました。また、'86国際画像機器展（日時：12月3日～5日、場所：都立産業貿易会館）を併催致します。奮ってご応募下さい。

日 時 昭和61年12月2日(火)～4日(木)

場 所 ニッショーホール（東京・虎ノ門・消防会館2階）

趣 旨 画像工学は光学、エレクトロニクス、写真・印刷などの広い分野の技術に支えられ、学術・産業・医療・民生にわたる分野の発展に貢献しております。本コンファレンスは日頃活動分野を異にする方々が一堂に会して交流を図ることにより、画像工学分野の研究開発およびその応用をさらに活発化することを目的としています。

構 成 招待講演と、応募による一般講演およびポスタ講演により行います。一般講演は、本会場にて研究発表を行います。ポスタ講演は、ポスタ会場の決められた場所で図表、写真、実物等を示し、興味をもつ聴衆と自由に質疑、討論を交わしながら研究発表を行うものです。一般およびポスタ講演ともオーディオビジュアル機器などを用いたデモンストレーションができます。なお、ポスタ講演のなかで優秀な発表に対して賞をおくります。

募集論文の性格 論文として未発表のものに限り、ただし口頭発表や研究速報などは差支えありません。

募集論文の内容 画像の入力・記録・蓄積・伝送・表示・コピー・処理などの基礎・知覚・材料・デバイス・システム・方式・応用・評価に関連する内容を募集対象とします。なお、今回は「メディアミックス時代の画質評価」と題した特別セッションを予定しています。関連する論文の応募を歓迎します。

応募資格 特に資格を問いません。

応募論文の審査 応募論文はプログラム委員会において、申込時提出の内容概要で審査いたします。また、プログラム編成上、一般講演とポスタ講演との変更をお願いすることがあります。

講演形式・時間 一般講演：質疑応答を含め20分(予定) ポスタ講演：ポスタ会場での発表討議90分(予定)

講演申込方法 A4横書の400字詰原稿用紙2枚以内(図表なども含め)の内容概要と、必要事項を記入した講演申込書(コピーでも可)を下記の送付先にお送り下さい(FAXでも結構です)。

申込締切 昭和61年7月1日(火)必着

論文集原稿 採択論文については一般、ポスタとも、図・写真・表を含め7000字以内のタイプ原稿を提出していただきます。また、希望によりカラー印刷のページを設けます(ただし実費自己負担)。原稿やスライドの作成方法などの詳細は8月上旬、論文採否通知とともに連絡します。

論文集原稿締切 昭和61年10月21日(火)必着

主 催 第17回画像工学コンファレンス実行委員会(担当 テレビジョン学会)

加盟学会・委員会 応用物理学会・光学懇話会、テレビジョン学会・画像表示研究委員会・視覚情報研究委員会・画像通信システム研究委員会・画像処理画像応用研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光子デバイス技術委員会、電子通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識 理解研究専門委員会、日本ME学会・医用画像のデジタル処理研究会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、日本医療情報学会、医用画像情報学会。

送付先・問合せ先 〒105 東京都港区芝大門2-3-14 一松ビル1号館402号室

「第17回画像工学コンファレンス事務局」 ☎ 03-433-2544 (FAX G2 兼用)

第17回画像工学コンファレンス講演申込書

題 目		講演形式の希望	デモンストレーション機器
氏 名		☐ 一般講演	☐ VTR
連絡先 (住所) (所属) (電話)	〒	☐ ポスタ講演	☐ マイコン・パソコン
	☎	☐ どちらでも可	その他() ☐ 使用しない
	FAX		持込み・借用

欧文誌の原稿募集について

本学会欧文誌“Journal of Information Processing”に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 70 ページ×4 回/年=280 ページ, A 4 判

(2) 純学術研究発表誌とし, Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として刷上り 8 ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき, 欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2 ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて, 採録を認められた欧文による小論文

3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙は A 4 判 (21 cm×30 cm) の白紙を使い, 1 行 65 ストローク, ダブルスペースで上下 3 cm (強) の余白を残し, パラグラフは初めを 5～6 字分あける。この様式で原稿をタイプした場合 (図表なしで) 24 枚で, 欧文誌刷上り 8 ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体, 数式中の記号は (イタリック) となる。

(2) 査読の都合上, タイトル, 氏名, 所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200 語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50 語以内

(3) 図表 (写真を含む) は, 完成図 (そのまま縮小製版できるもので, 縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお, 文字は縮版のさいも読める大きさに書く。) を本文と別にし, 説明文は別紙にまとめてタイプし, 本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー 4 部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷 100 部を印刷実費の一部として, ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

昭和 年 月 日

研究会発表申込書

太線枠内のみご記入下さい.

研究会名	研究会		
発表希望の 研究会開催日	昭和 年 月 日 ()		
タイトル			
発表者名			
概要 (50 字以内)			
原稿用紙送付先住所	〒	Tel.	— (内線)
氏名			

昭和 年 月 日受付

研究会名 資料 No. 開催日 幹事送付済み その他

		昭和 年 月 日		
--	--	----------	--	--

サイエンス社

●最新刊●

認知科学入門

——「知」の構造へのアプローチ——

戸田正直・阿部純一・桃内佳雄・往住彰文共著

A5・2600円

人間の心の仕組を「知」を中心に明らかにしていこうとする学問「認知科学」。
そのさまざまな用語・概念、背後にある考え方について解説した、初学者向の
手引書が本書である。『サイコロジ』誌上連載に俊英の著者陣がさらに加筆。

人工知能と人間 I・II

M.A. ボーデン著／野崎昭弘他訳 A5・各2800円

FACOMユーザのための TSSによる FORTRAN77 入門

——PFD を中心に——

山崎光悦他共著

A5・2000円

KNUTH-4 準数値算法／算術演算

D.E. クヌース著／中川圭介訳 A5・予4600円

オートマトン 言語理論 計算論 I・II

ホッフクロフト・ウルマン著 野崎他訳

A5・各2800円

人工知能のための micro-PROLOG プログラム コレクション

山田眞市著

A5・2600円

線形代数と 線形計算法序説

村田健郎著

A5・2000円

人間とコンピュータを考える

隔月刊誌

Computer Today

5月号／好評発売中／定価880円

エキスパートシステム 構築ツール

——プロダクションシステムOPS5を中心に——

OPS5と私

安西祐一郎

OPS5文法入門

鈴木宣夫

OPS5 プログラミング入門

実榎富二男

OPS5 vs. COMMON LISP & C

五十嵐敦子

OPS5を利用した

μKIT-2001故障診断プログラム

武田文也

OPS5の高速化

伊藤秀昭

OPS5 on Prolog

小林重信・小澤和義他

——別冊 Computer Today——

パーソナルコンピュータのための 日本語スクリーンエディタの作り方

●小川貴英著

B5・120頁・1300円

あらゆるパソコンに対応する日本語エディタ

“SSE (Simple Screen Editor)”の初の解説書。

MS-DOSを使用したこのシステムは、従来の日

本語を含むテキストの編集方式に疑問を持った

著者が、文書の編集やプログラムの作成を目的

として独自に開発したものである。入力、編集、

システムの内容及び使用法の解説に加え、プロ

グラムの全ソースリストを付与。→ソフト別売

数理 科学

6月号

宇宙の創成

——“無”からの相転移——

宇宙のはじまり！ 真空の相転移の研究の中からインフレーション宇宙論が導びきだされた。ゲージ理論やそれに基づく統一理論は、どのように宇宙の相転移を示唆し、宇宙物理的意味をもつか？

別冊

形・フラクタル

定価2000円